

# まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

## 花めぐり

ノボタン

わが家の庭先には、花が少なくなる秋から冬にかけて、たくさんの花を咲かせる鉢植えのノボタンがあります。深みのある紫の花色が上品な雰囲気を持って、庭先を美しく彩ってくれます。

葉は、産毛で覆われていて、ビロードのような手触りがします。それぞれが紅葉し1枚ずつ散っていきます。花卉は5枚ついでおり、中心にいくつもの雄しべが突き出ているのが特徴です。また、雄しべがクモの足のように見えることから、別名「スパイダーフラワー」と名付けられています。

花色の紫色には、リラックスさせる効果があり、そのことから「平静」という花言葉もつけられました。

和名：紫紺野牡丹(しこんのぼたん)

科・属名：ノボタン科・シコンノボタン属

原産地：中南米～南米

開花期：7月～11月

(荏原4丁目町会・池田 美貴子)



私たちが小山2丁目西部町会には、毎年ひとつがいの「ツバメ」がやってきてくれます。毎年同じ軒下に巣を構え、子育てをしています。

## ツバメの不思議？



今年も一回目に四羽が巣立ち、二回目は二羽が巣立ってくれました。町会では、毎年ツバメがやってくると、皆、温かく迎えて面倒を見ています。巣の近くにある通り沿いには、「ツバメ子育て中 ゆっくり」という看板を立てて、運転中の人も協力をお願いしています。

## どうぞよろしく。新町会長 紹介



小山4丁目町会 東 牧夫 さん (68)

出身：品川区小山  
趣味：旅行・鉄道・車

祭りに誘われ、町会に参加して数十年。良い経験を積んできました。その時々にはテーマがありましたが、今や最重要の「防災」に取り組んでいます。また、お年寄りが安心して楽しく住めるように、さらに、子どもたちが地域の方達と一緒に楽しく成長できるような町会の実現に向けて、役員の皆様と協力して頑張っております。ご支援をよろしく申し上げます。



小山台2丁目町会 上原 孝之 さん (70)

出身：群馬県  
趣味：旅行

小山台に住んで50年になります。最近あらためて感じますことは、緑に囲まれ、自然美にあふれたこの地域は、とても住みやすく素晴らしいということです。そして、住んでおられる方達もとても明るく、良い人たちです。そんな我が地域が、さらに安全で安心して住めるよう、地域のみなさんと一緒に築いてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

## わが家のペット

### ～荏原保育園のザリガニ～

荏原保育園では、オスとメス、2匹のザリガニを飼育しています。

園では、ザリガニを3年前から飼い始め、毎年秋に産卵し繁殖に成功しています。今年もまた卵を産むのではないかと、子どもたちは今か今かとその時期を楽しみに待っています。

ザリガニの水槽は、子どもたちが登降園する玄関前に置いてあります。子どもたちは、毎日ザリガニを確認しては、元気に動く姿を観察してその成長を見守っています。

取材をさせてもらったこの日も、1歳児クラスの子もたちが、エサの干しエビをはさみでつかむ様子を観察していて、「がんばれ、あともうちょっと」とか「食べてるね」と言いながら、2匹のザリガニの様子をじっと眺めていました。

ザリガニのエサや水換えは保育士の先生が担当していますが、初めてザリガニを飼育する先生たちも、ザリガニの繁殖や脱皮を目にすると、その成長や生態の神秘に魅せられると言います。

今年の秋も、ザリガニの赤ちゃんが無事に産まれるように、先生も子どもたちもみんながその日が来るのを楽しみにしています。(事務局)



## ◎シリーズ◎ 駅前再開発



### ⑦ムササビの移り変わり 再開発への思い

私が武蔵小山駅に初めて降り立ってから65年余。当時、駅の改札は地下で、ホームは地上、緑色のかまぼこ型の2、3 輦電車でした。



親ツバメを待つ今年孵った雛たち

昭和の香り、におい、人情がまたどこかで感じられるムササビであって欲しいと願うのは私だけでしょうか。(小山台1丁目東町会 川崎 喬子)

それにしては不思議ですね。スカイツリーの634メートルの高さから地上を見ると、一軒一軒の家が米粒ほどの大きさなのに、彼らは何千キロも旅をして日本の上空にたどり着き、さらに、上空1000メートル以上の高さから「その一軒」を探し当ててくるのですから。そのツバメが去年の親なのか、その子どもなのか分かりませんが、その不思議さを考えれば、考えるほど、そそられますね。どなたか、このツバメの不思議についてご存知でしたら教えてください。 (小山2丁目西部町会・高橋 元嘉)

歴代続く呉服店、和菓子店、甘味処、美容院に薬屋など、女性が立ち寄りたくなる老舗が少しずつ消えていき、古きを知る者にとっては淋しい限りです。現在では、時代を反映してか、スマホやメディア関係の店が多く、一日や一週間だけの店も出現。店員の呼び声もテンションが上がっていきます。さて、昭和32年頃、我が家近隣でも建替え工事が始まり、古い建造物が次々と解体され、大きな鉄の固まりを振り子式にして壊し、その音や地響きは地震のようでした。当時の街は、映画館、風呂屋、雑貨、魚屋、八百屋、肉屋等いろいろあつて、住民の生活を支えてくれていました。そのうち、スーパーマーケット、そしてコンビニが出来、前掛けをかけたまま立ち話をする主婦もあちこちで見かけたまま立ち風情もなくなっていました。駅前飲み屋に多くの思い出を作った人も、立ち退きを惜しむ声でいっぱいでした。

◎各ご家庭に配布しております。一部ずつお取り下さい。次号『まちかど』は11月20日(月)発行の予定です。

「まちかど」は、品川区役所ホームページからもご覧いただけます。 <http://www.city.shinagawa/tokyo.jp/> 古紙を配合した紙を利用しています。